地質ニュース

NO. 3 1953

地質調査所

土地保全のモデル調査

山形縣最上郡下へ

経済審議庁計画部國土調査課では，このほど災害予防・土地保全の見地にたつ國土の格付を目論み，**土地分類調査委員会**を数回にわたつて開催しているが，その実施方法をきめる目的で，**モデル・フィールド**を山形縣最上郡地区に設定し，地理調査所をはじめ，地質調査所・中央気象台・農林省農地局，林野庁・建設省河川局など各方面の専門家の参加をもとめ，5月中旬から約4週間にわたり山形縣庁の協力のもとに一大綜合調査をおこなつた。

地質調査所からは地質部應用地質課員が参加して地質班を編成し，現場においては地質・鉱物の観察をはじめとして，若干の理化学的・工学的な測定もおこない面積，2,200 km² という広大な地区の調査に従事した。

その結果，調査地区の東側に位置する奥羽山脈寄りの緑色凝灰岩地域は，雪崩による裸岩地帯ないしは山崩れ地帯をなし，河川は常時荒れ川の相貌を見せているのに反し，西側の出羽丘陵の油田第三紀層地域は地辷地帯を形成し，特にその南半の銅山川流域一帯は油田第三紀層の上に厚い火山灰(**シラス**)が被覆しているために，崩壊・地辷りの程度が桁外れにひどいことが判つた。

中央の新庄盆地は含亞炭層地帯となつているが，ここは沖積地の洪水・冠水と扇状地の干ばつ以外には土地災害として顯著なものは少かつた。

やがて地理調査所・気象台・林野庁・農地局・河川局関係の調査結果も，近々のうちに出揃うこととなり，これら綜合調査の成果には多大の期待がよせられている。

(地質部應用地質課)